

「平成29年度富山市中学校3年生学力調査」
結果の概要

平成30年1月29日(月)

富山市教育委員会

「平成29年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- 各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- 生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

II 実施状況

- 実施期日 平成29年12月4日(月)、5日(火)
- 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 実施学校数・生徒数

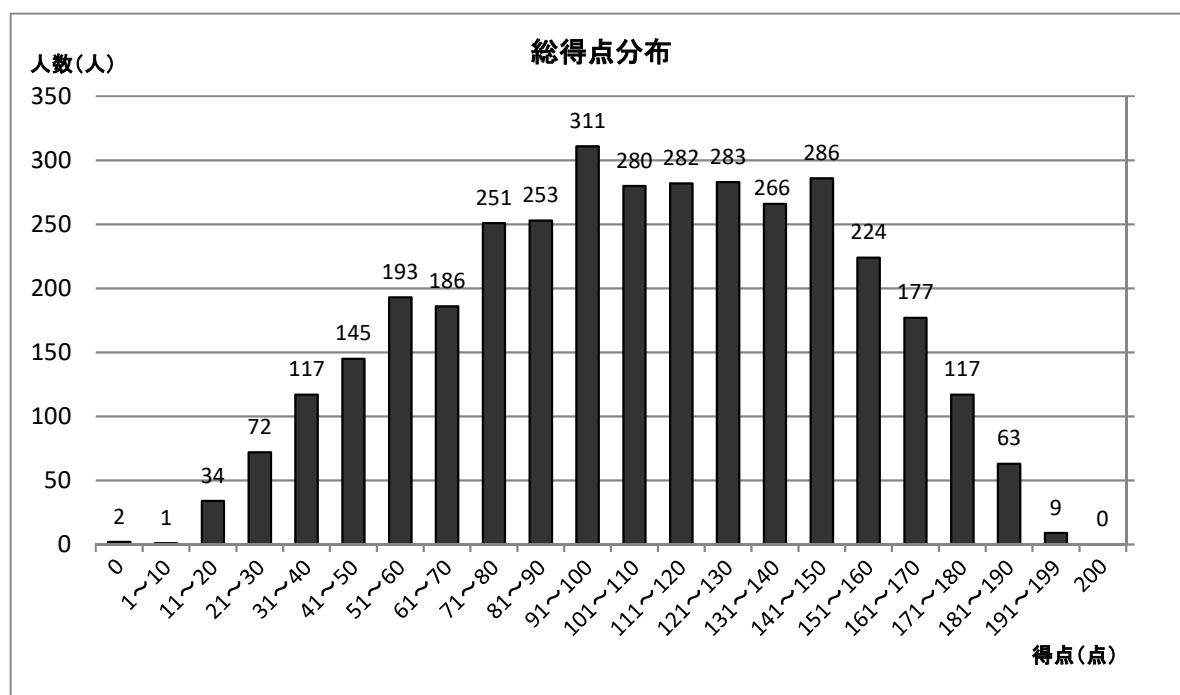
| 実施学校数 | 生徒数 | |
|------------------|------|------------------------|
| 27校1分校 附属中を含む | 在籍数 | 3,752人 |
| | 受検者数 | 3,552人 (5教科全てを受検した生徒数) |

III 結果の概況

1 教科別全生徒平均点

| 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 総得点 |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 23.7点 | 20.4点 | 20.1点 | 21.7点 | 20.6点 | 106.9点 |

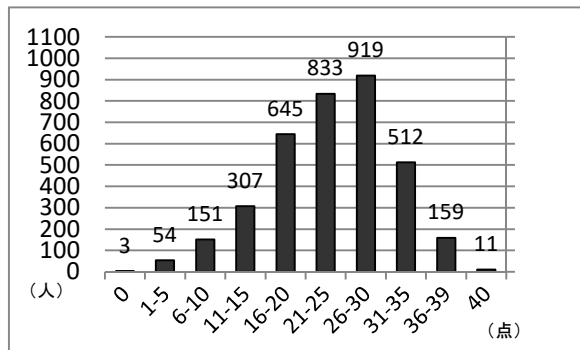
2 総得点分布表・グラフ



3 教科別得点分布表・グラフ

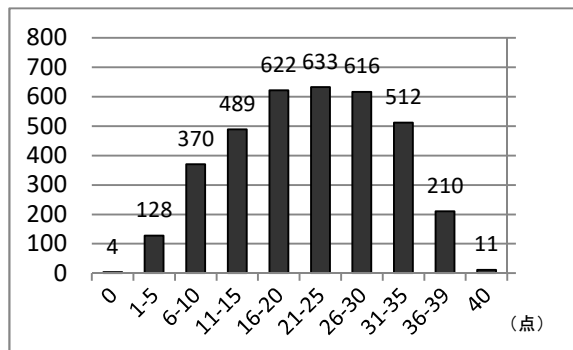
国語

平均点 23.7点 受検者数 3,594人



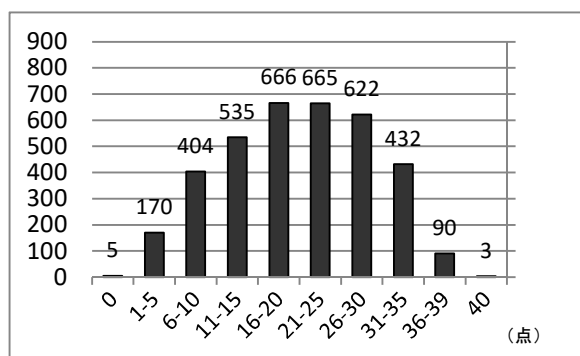
理科

平均点 21.7点 受検者数 3,595人



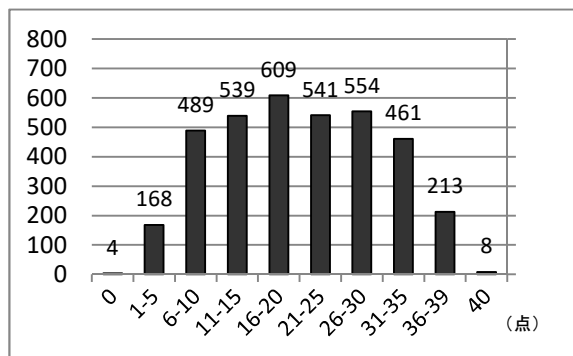
社会

平均点 20.4点 受検者数 3,592人



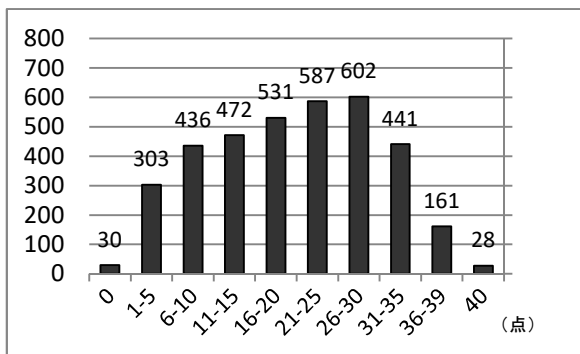
英語

平均点 20.6点 受検者数 3,586人



数学

平均点 20.1点 受検者数 3,591人



IV 結果の概要

1 抽出調査について

中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各学級から8人の抽出を行うものとした。松風分校以外の27校を対象とした。

2 抽出生徒数

| 学校数 | 学級数 | 抽出生徒数 |
|-----|-------|-------|
| 27校 | 107学級 | 856人 |

(附属中含む)

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 正答率の低い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の低い問題について、問題の一部を提示しながら考察を行う。

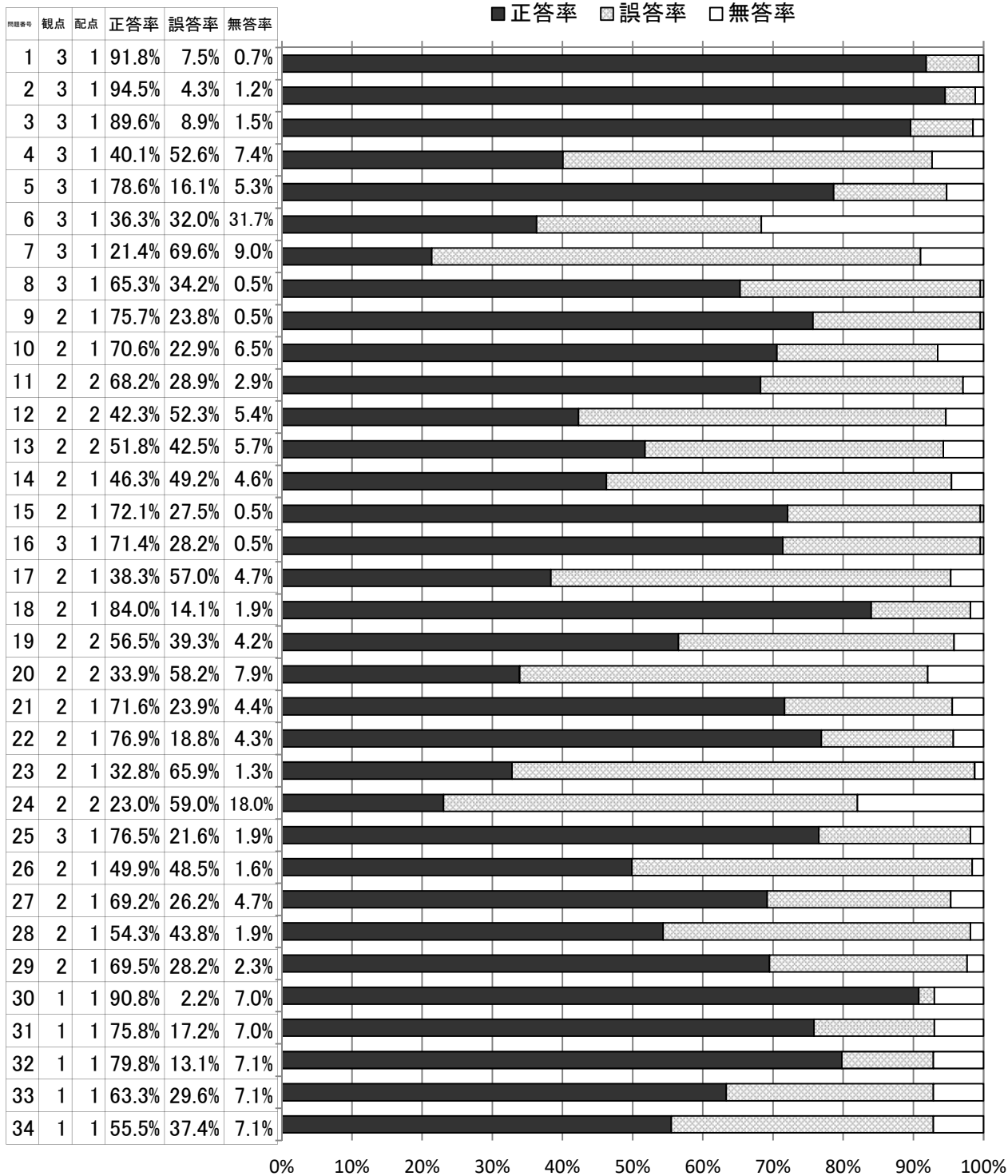
2 今後の指導

1の(3)で考察した正答率の低い問題を中心に今後の指導の工夫について表記する。

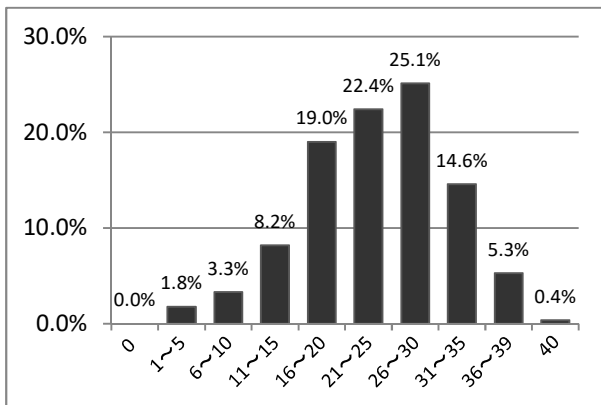
VI 抽出生徒から分析する各教科の概要

国語 抽出生徒数 856人 抽出平均 23.9点

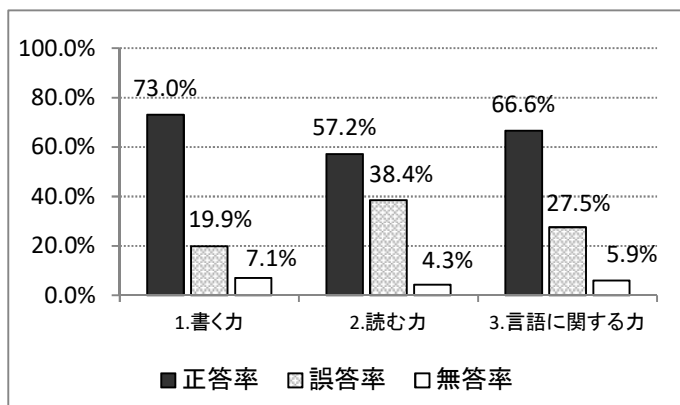
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は23.9点であり、基礎的・基本的な学習内容は定着している。観点別の正答率では「書く力(73.0%)」「言語に関する力(66.6%)」に比べ「読む力(57.2%)」が低い。観点別の無答率はすべての観点で昨年度より下回った。

(2) 正答率の高い問題について

「書く力」では、作文を二段落構成で書くことや原稿用紙を正しく使うことの正答率が高く、基本的な学習内容が身につけている。(通し番号30、32)

「読む力」では、文学的な文章において、文章で用いられた単語の意味を表す表現を文中から抜き出す問題や文中にある言葉を参考にしながら答える問題の正答率が高い。(通し番号18、22)

「言語に関する力」では、文脈に即して漢字の読みを答える問題の正答率が高く、全て90%前後であった。(通し番号1、2、3)

(3) 正答率の低い問題について

「読む力」では、文脈を正確に読み取り、登場人物が話した言葉について指定された書き出しに続けて決められた字数内で説明する問題の正答率が23.0%と低く、無答率も18.0%と高い。(通し番号24)

「言語に関する力」では、日常あまり使わない言葉を漢字で書く問題の正答率が36.3%と低く、無答率も31.7%と高い。また、単語に係る文節を抜き出す問題の正答率が21.4%と低い。(通し番号6、7)

(通し番号7)

①天体に が係る文節を一文節で抜き出さない。

(通し番号24)

②やさしい音で鳴ったら、記憶のほうがついていく とありますが、どういうことですか。後の書き出しに続くように、文中の言葉を使って四十字以内で書きなさい。

忠実に再現された音ではなくても、

2 今後の授業に向けて

(1) 「書く力」を育成するためには、伝えたい内容を明確にし、その根拠となる事実や具体例等、集めた情報を整理して文章を構成する過程を重視する。また、書いた文章を推敲する際には、ペアやグループで読み合い、語句の使い方や段落相互の関係等、具体的な視点を持ち、書き手と読み手それぞれの立場から検討する学習活動を行う。

(2) 「読む力」を育成するためには、段落ごとの要旨をとらえる、段落と段落のつながりを意識しながら読む、指示語や接続詞から文章展開を予想する、筆者が繰り返し用いる語句等から全体の要旨をとらえるなど、文章を読み解く視点を明確にして指導することが大切である。

また、授業のまとめや振り返りにおいて、キーワードや段落構成等、示された条件で自分の考えを端的に文章化する学習を積み重ねる指導を行う。

(3) 「言語に関する力」を育成するためには、漢字や熟語、ことわざ、故事成語、日常で馴染みのない語句等について、辞書等を活用して調べる習慣を身につけることで語彙を豊かにするとともに、学習したことを日常生活の中で積極的に使用していくように指導することが大切である。

社会

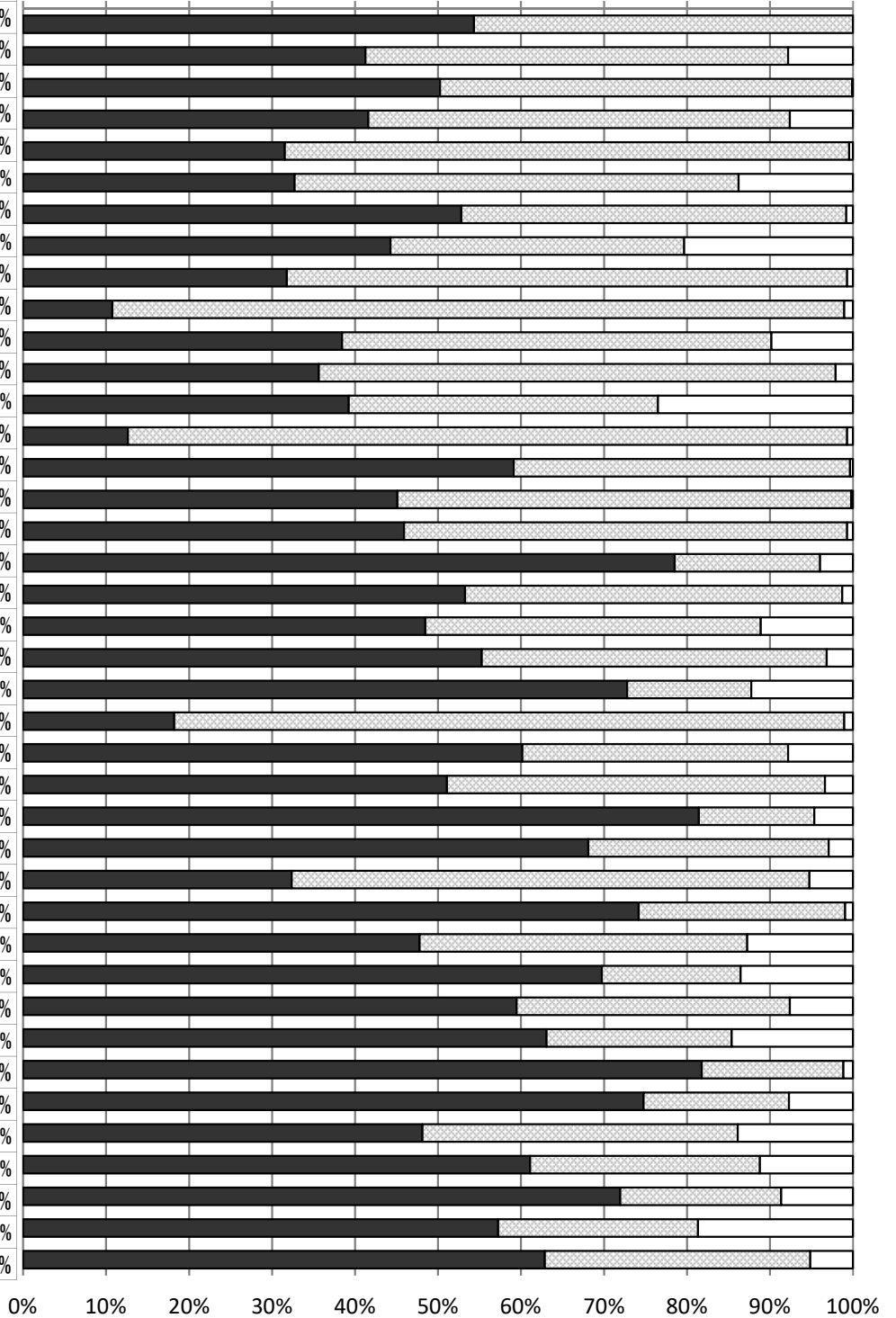
抽出生徒数 856人

抽出平均 20.6点

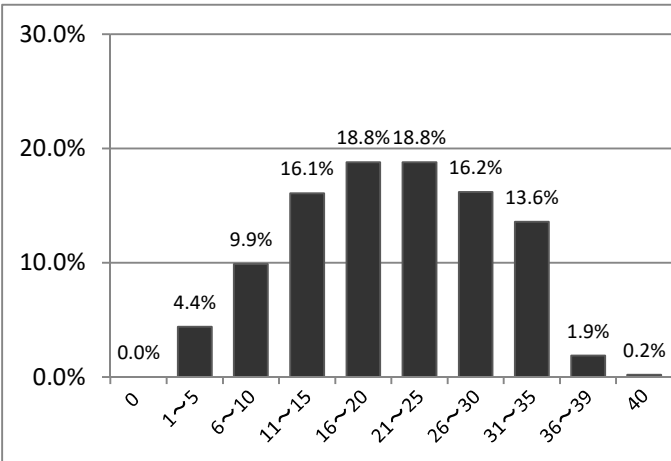
【設問別正答率表・グラフ】

| 問題番号 | 観点 | 配点 | 正答率 | 誤答率 | 無答率 |
|------|----|----|-------|-------|-------|
| 1 | 1 | 1 | 54.3% | 45.7% | 0.0% |
| 2 | 1 | 1 | 41.2% | 50.9% | 7.8% |
| 3 | 2 | 1 | 50.2% | 49.6% | 0.1% |
| 4 | 1 | 1 | 41.6% | 50.8% | 7.6% |
| 5 | 1 | 1 | 31.5% | 68.0% | 0.5% |
| 6 | 2 | 1 | 32.7% | 53.5% | 13.8% |
| 7 | 1 | 1 | 52.8% | 46.4% | 0.8% |
| 8 | 3 | 1 | 44.3% | 35.4% | 20.3% |
| 9 | 1 | 1 | 31.8% | 67.5% | 0.7% |
| 10 | 1 | 1 | 10.7% | 88.2% | 1.1% |
| 11 | 1 | 1 | 38.4% | 51.8% | 9.8% |
| 12 | 2 | 1 | 35.6% | 62.3% | 2.1% |
| 13 | 3 | 1 | 39.3% | 37.3% | 23.5% |
| 14 | 1 | 1 | 12.6% | 86.7% | 0.7% |
| 15 | 1 | 1 | 59.1% | 40.5% | 0.4% |
| 16 | 2 | 1 | 45.1% | 54.7% | 0.2% |
| 17 | 2 | 1 | 45.9% | 53.4% | 0.7% |
| 18 | 3 | 1 | 78.5% | 17.5% | 4.0% |
| 19 | 1 | 1 | 53.3% | 45.4% | 1.3% |
| 20 | 1 | 1 | 48.5% | 40.4% | 11.1% |
| 21 | 2 | 1 | 55.3% | 41.6% | 3.2% |
| 22 | 3 | 1 | 72.8% | 15.0% | 12.3% |
| 23 | 3 | 1 | 18.2% | 80.7% | 1.1% |
| 24 | 1 | 1 | 60.2% | 32.0% | 7.8% |
| 25 | 2 | 1 | 51.1% | 45.6% | 3.4% |
| 26 | 1 | 1 | 81.4% | 13.9% | 4.7% |
| 27 | 1 | 1 | 68.1% | 29.0% | 2.9% |
| 28 | 1 | 1 | 32.4% | 62.4% | 5.3% |
| 29 | 3 | 1 | 74.2% | 24.9% | 0.9% |
| 30 | 1 | 1 | 47.8% | 39.5% | 12.7% |
| 31 | 3 | 1 | 69.7% | 16.7% | 13.6% |
| 32 | 1 | 1 | 59.5% | 32.9% | 7.6% |
| 33 | 3 | 1 | 63.1% | 22.3% | 14.6% |
| 34 | 1 | 1 | 81.8% | 17.1% | 1.2% |
| 35 | 3 | 1 | 74.8% | 17.5% | 7.7% |
| 36 | 1 | 1 | 48.1% | 38.0% | 13.9% |
| 37 | 3 | 1 | 61.1% | 27.7% | 11.2% |
| 38 | 3 | 1 | 72.0% | 19.4% | 8.6% |
| 39 | 3 | 1 | 57.2% | 24.1% | 18.7% |
| 40 | 2 | 1 | 62.9% | 32.0% | 5.1% |

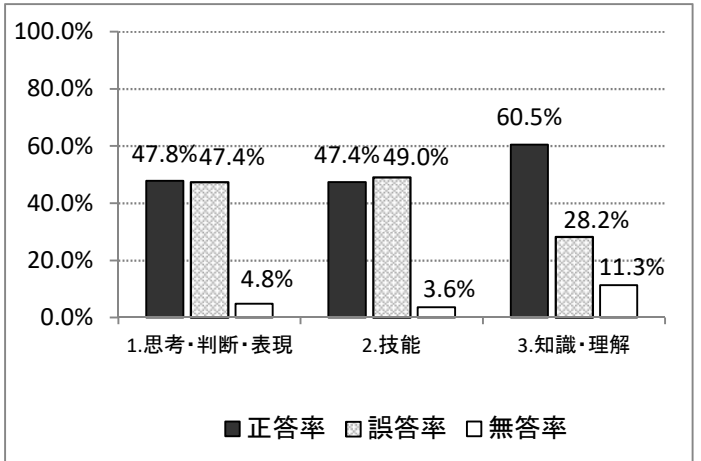
■ 正答率 □ 誤答率 □ 無答率



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.6 点で、観点別の正答率は、「知識・理解」が 60.5%で、「思考・判断・表現」の 47.8%、「技能」の 47.4%と比べ高い。また、無答率が 10%を超えた問題が 11 問あり、昨年（8 問）より増えている。

(2) 正答率の高い問題について

授業で取り上げる機会が多い語句に関する問題の正答率が高く、繰り返し学習することで知識の定着が図られている。（通し番号 18、22、29、35、38）

生活経験から判断しやすい問題の正答率が高く、簡単な内容であれば、確実に資料を読み取ることができている。（通し番号 26、34）

(3) 正答率の低い問題について

正答率の低い問題が歴史分野に多い。特に、ある出来事の同年代の様子や出来事の年代順を問う問題の正答率が低く、それぞれの歴史的事象が起こった背景やそれらの関係、相互の影響についての理解に課題がみられる。（通し番号 5、9、10、14）

また、「応仁の乱」や「サラエボ事件」等、重要な歴史的事象ではあるものの、扱う機会が多くない用語を答える問題の無問率が高い。（通し番号 8、13）

| | | | | |
|---|------|-------------|--------------|-----|
| <p>(通し番号 10、14)</p> <p>[2] (1)</p> <p>(1) 年表中 A の不平等内容に「領事裁判権を認める」とことと「日本に關稅自主權がない」ことがあげられる。 これらの不平等内容を解消したのはいつか。それぞれ、年表中 W～Z から選びなさい。</p> <p>[2] (5)</p> <p>(5) 次の①～④の項目は年表中 α の期間に起きたできごとである。年代の古い順に並べかえなさい。</p> <p>① 二・二六事件が起きる。 ② 五・一五事件が起きる。 ③ 日本が國際連盟を脱退する。 ④ 日独伊三国同盟が結ばれる。</p> | 1889 | 大日本帝國憲法の發布 | | |
| | | | ↓ W | |
| | | 1894 | イ 日清戦争が始まる | |
| | | | ↓ X | |
| | | 1904 | ウ 日露戦争が始まる | |
| | | | ↓ Y | |
| | | 1910 | 韓国を併合する | |
| | | | ↓ Z | |
| | | 1914 | 第一次世界大戦に参戦…C | |
| | | 1925 | 男子普通選挙制度が実現 | |
| | | 1931 | 満州事変が起きる | |
| | | | | ↑ α |
| | 1937 | エ 日中戦争が始まる | | |
| | 1939 | 第二次世界大戦が始まる | | |
| | | | ↓ | |
| | 1941 | 太平洋戦争が始まる | | |

2 今後の授業に向けて

(1) 授業の中で、年表や地図等を活用することが大切である。年表を用いて、歴史的事象相互の関連や影響について考えたり、地図を用いて、地理的特徴と地域の産業や特色との関連について考えたりする機会を繰り返し設ける。

(2) 授業の終末では、複数の指定された語句を用いて、学んだことを書いてまとめる活動を取り入れ、社会的事象が起こった理由や影響を端的に表現する力を養う。

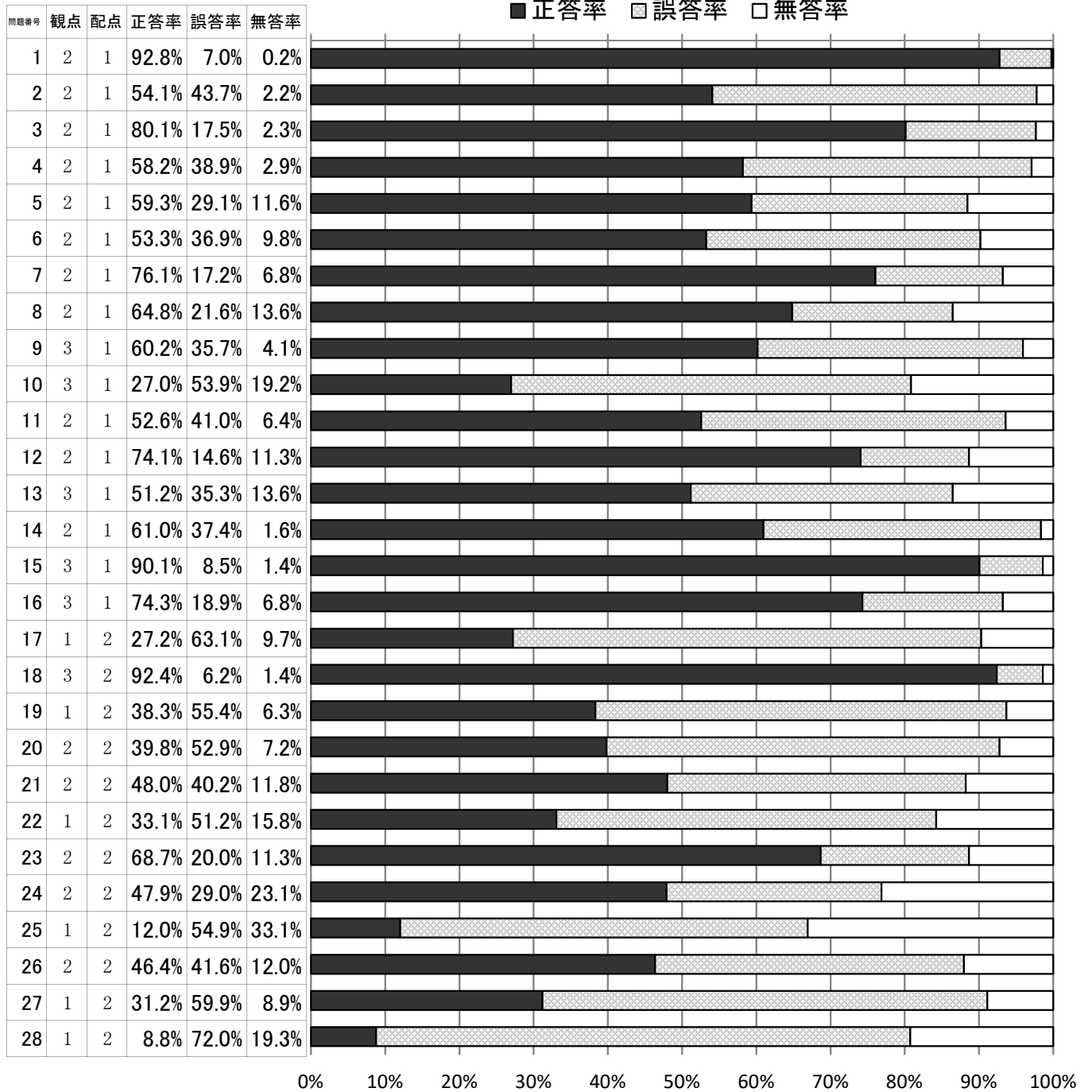
(3) ニュース、新聞等から身の周りで起こっている社会的事象を取り上げ、疑問や課題を明確にして、考え、話し合う場を意図的に設定する。学習していることと自分のつながりを実感させながら、さらに興味・関心をもって学ぶことができるようにする。

数 学

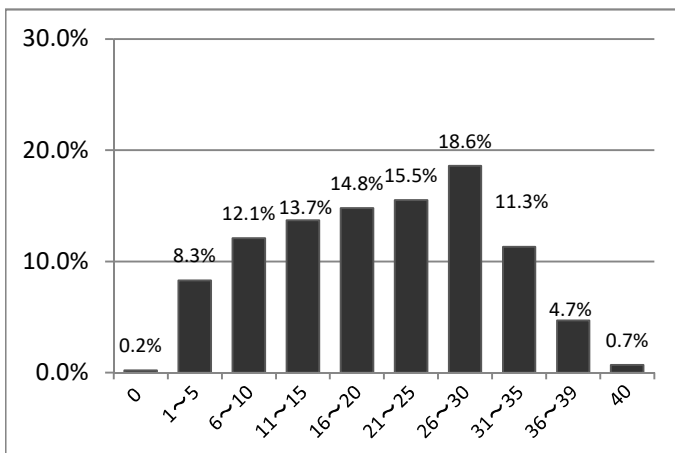
抽出生徒数 856人

抽出平均 20.2点

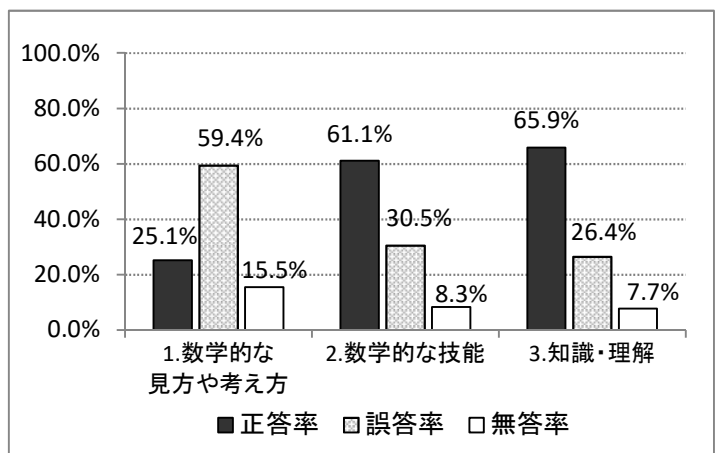
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.2 点である。観点別でみると、「数学的な技能」「数量や図形等についての知識・理解」の正答率が 60%を超えているのに対して、「数学的な見方や考え方」の正答率は 25.1%、無答率は 15.5%と課題が見られるが、昨年度（正答率 21.7%、無答率 24.7%）より改善された。

(2) 正答率の高い問題

「数と式」領域では、正負の数の計算、根号を含む式の計算、連立方程式の計算、規則性をとらえて具体的な数を求める問題の正答率が高い。（通し番号 1、3、7、18）

「図形」領域では、基本的な作図問題の正答率が高い。（通し番号 12）

「資料の活用」領域では、身近な資料から階級に属する度数や相対度数を求める問題の正答率が高く、基本的な用語の理解が概ね定着している。（通し番号 15、16）

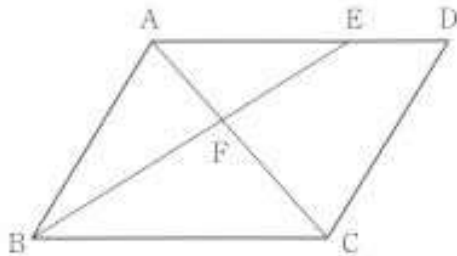
(3) 正答率の低い問題

正答率が最も低い問題は、ある三角形の面積が基になる図形の面積の何倍になるかを求める問題で、正答率は 8.8%であった。また、座標平面上で、ある三角形と面積が等しい三角形の頂点の座標を求める問題は正答率が 12.0%で、無答率が 33.1%と最も高かった。与えられた条件に合わせて図形を分解するなど、既習事項を活用できるように図形をとらえ直す力が必要である。（通し番号 28、25）

文章で表された数量関係を連立方程式で表す問題の正答率が 27.2%であった。事象の数量関係を見だし表現することに課題がある。（通し番号 17）

(通し番号 28)

〔7〕 図のように平行四辺形 ABCD の辺 AD 上に $AE : ED = 2 : 1$ となるように点 E をとり、BE と AC の交点を F とします。このとき、次の問いに答えなさい。



(3) $\triangle AFE$ の面積は平行四辺形 ABCD の面積の何倍か求めなさい。

2 今後の授業に向けて

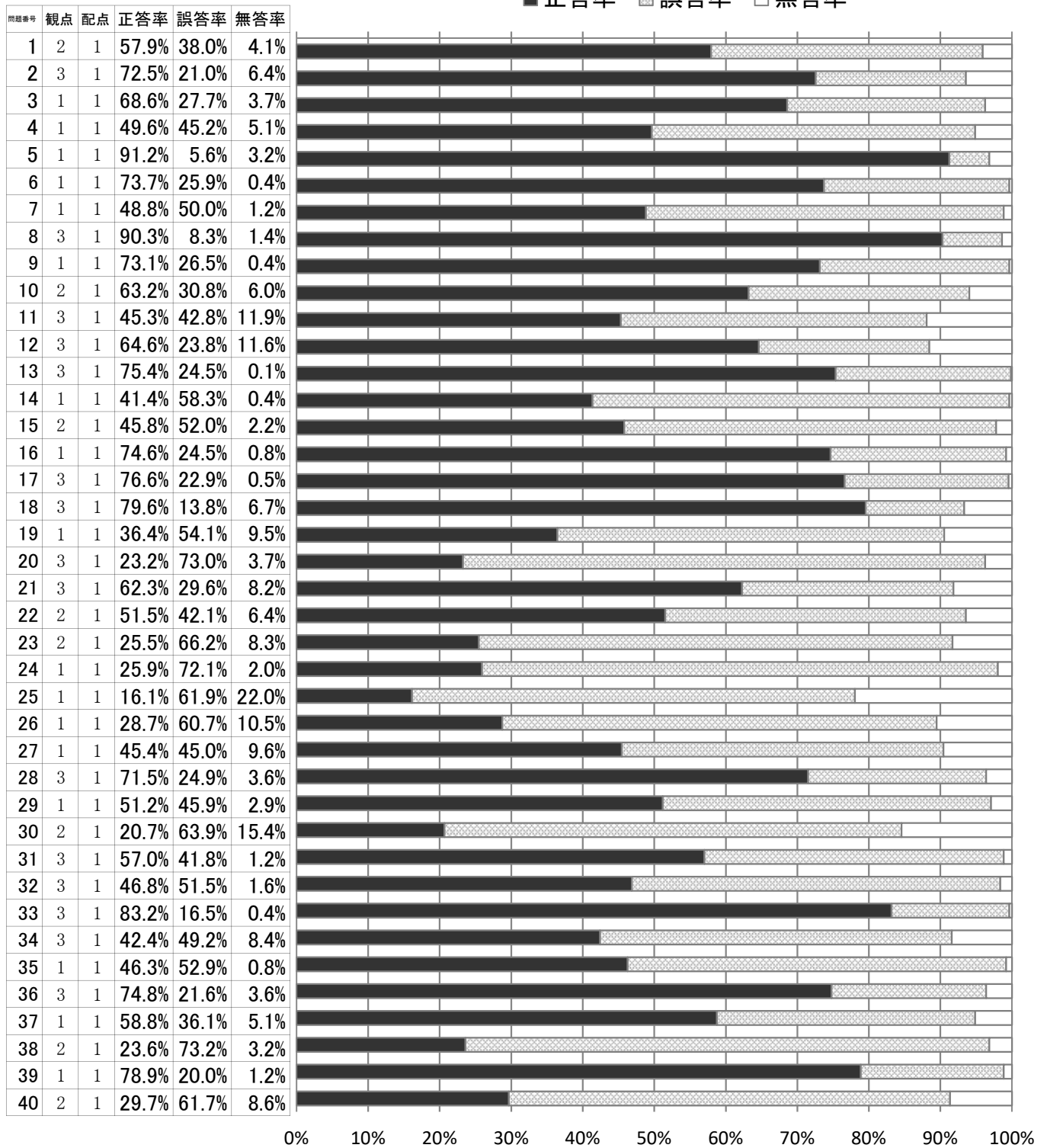
- (1) 「図形」領域の学習では、観察、操作や実験等を通して図形の基本的な性質を見いだしたり、性質のつながりを理解したりする学習を大切にするとともに、試行錯誤を繰り返しながら既習の性質を用いて粘り強く問題に取り組む習慣を身につけるようにする。
- (2) 「数と式」領域の学習では、形式的な処理の習得にとどまらず、数量関係を表や線分図で表し、その関係を明らかにして立式する過程を大切にす。また、式を読み取り、言葉で数量関係を表すなど、立式ばかりにとらわれない指導の工夫も必要である。
- (3) 「数学的な見方や考え方」を育てるために、言葉や数、図、表、式、グラフ等を適切に用いながら、根拠を明らかにし、筋道を立てて説明する場面を日ごろから設定することが必要である。さらに、問題を解決する過程や結果を振り返って、「他に分かることはないか」「条件の一部を変えたらどうなるか」「共通する性質は何か」等、統合的・発展的に考察する学習を行うことが大切である。

理科

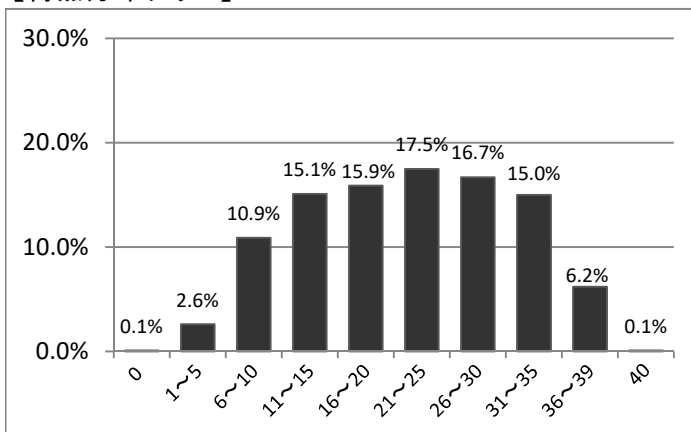
抽出生徒数 856人

抽出平均 21.9点

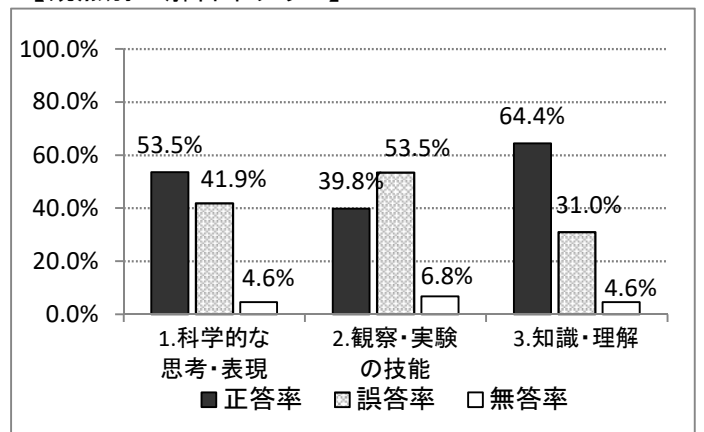
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 21.9 点であり、観点別では「観察・実験の技能」の正答率が 39.8% で、昨年度の 50.5% と比べ低くなった。「知識・理解」の正答率が 64.4% で、基礎的・基本的な学習内容が概ね定着していることがうかがえる。無答率 10% 以上の問題は 5 問で、昨年度より減少しているものの、無答率が 22% と高い問題がある。

(2) 正答率の高い問題について

「花の咲かない植物の分類」「石灰水の気体による変化」「受精卵の発生」に関する問題の正答率が高い。小学校から繰り返し扱っている学習内容や観察・実験等の実体験に基づいた学習内容が定着していることがうかがえる。(通し番号 5、8、33)

(3) 正答率の低い問題について

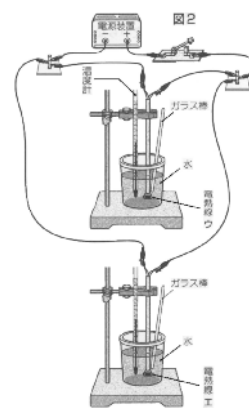
「つり合う力の作図」の問題では無答率が低い (3.2%) にもかかわらず正答率が低い (23.6%) ことから、正確に作図ができなかったことがうかがえる。(通し番号 38)

また、「電熱線による発熱と水の温度上昇」を計算によって導き出す問題の正答率が 16.1% と低いことから、筋道を立てながらいくつかの公式を使って考えることに課題が見られる。(通し番号 25)

(通し番号 25)

[7] 図 1、図 2 のような回路をつくり、電源の電圧を 6 V にし、5 分間電流を流した。電熱線ア、ウの抵抗はそれぞれ $4\ \Omega$ 、電熱線イ、エの抵抗はそれぞれ $6\ \Omega$ で、容器に入っている水の質量はすべて 100 g である。次の問いに答えなさい。

(4) 電熱線ウから発生した熱量が、全て水の温度上昇に使われたとすると、水の温度は何 $^{\circ}\text{C}$ 上昇するか。小数第 1 位を四捨五入し、整数で答えなさい。ただし、1 g の水の温度を 1°C 上昇させるのに必要な熱量を 4.2 J とする。



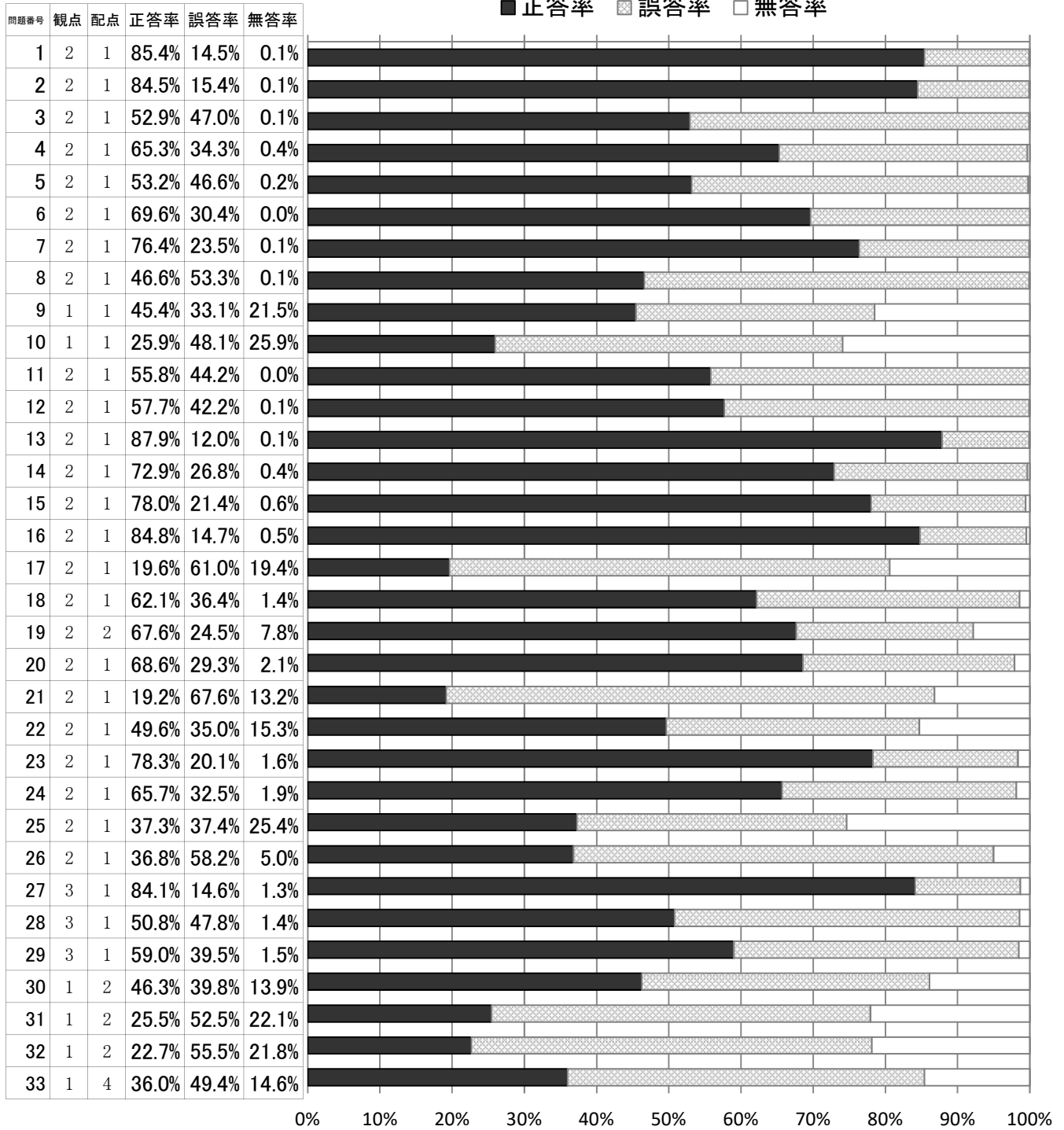
2 今後の授業に向けて

(1) 用語等をただ覚えるのではなく、他の事物・現象と関連づけたり、意味づけたりすることが大切である。原因と結果、部分と全体、多様性と共通性等、事物・現象をとらえる視点を意識して学ぶことが求められており、表面的な知識にとどまらず、なぜそのようになっているのかを知ろうとする探究心を大切にする。ペアやグループでの話し合い活動等を通して、互いの考えを交流し、問いが生まれるような学習を積み重ねていくことが必要である。

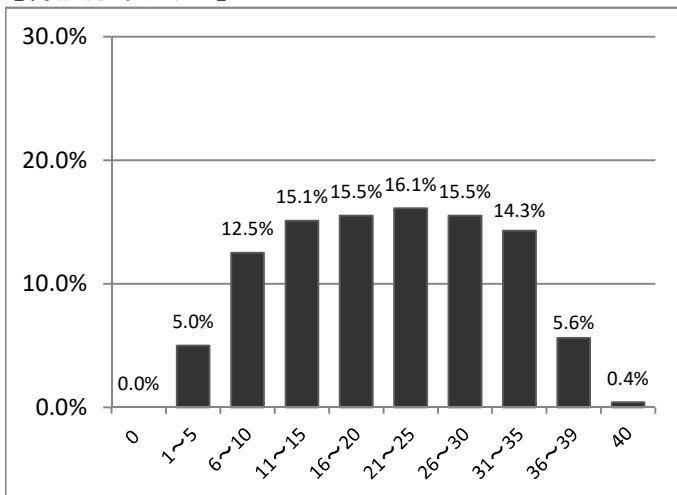
(2) 表や図、グラフ等に実験結果を処理したり、これらの表やグラフなどを活用しながら科学的な言葉を使って考えたり説明したりする学習活動により、考察を深めることができる。例えば、初めは教師が意図的に作成したワークシート等を用いて様々な表現を学び、次第に複数のワークシートから自分に合った表現方法を選んだり、ノートに自分なりにまとめたりする経験を積み重ねていくことが大切である。

(3) 原理や法則について理解していても、それを利用して数学的な処理をすることを苦手と感じる生徒も多い。根本となる原理や法則を確実に理解し、基礎的な問題に繰り返し取り組むことが重要である。

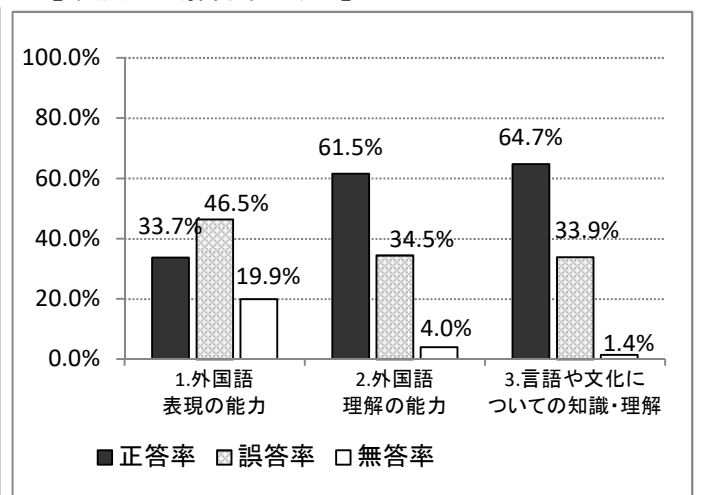
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 英語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.9 点であり、基礎的・基本的な学習内容が概ね定着していることがうかがえる。観点別では、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が 64.7%に対し、「外国語表現の能力」のは 33.7%と低い。また、「外国語表現の能力」の無答率が 19.9%と昨年度(15.5%)に比べてやや高い。

(2) 正答率の高い問題

正答率が 70%を超えた問題は 9 問あり、そのうちの 8 問が「外国語理解の能力」の問題である。英文や対話文を聞いたり、読んだりし、その内容の正誤について答える問題や文脈に合う語や英文を選ぶ問題の正答率が高い。日ごろから内容的にまとまりのある英文を聞いたり、読んだりすることで、全体の概要や内容の要点をとらえることができるようになっている。(通し番号 1、2、7、13、14、15、16、23)

(3) 正答率の低い問題

聞いたり、読んだりした英文の内容を理解し、自分なりの意見や理由を英語で答える問題の正答率が低く、無答率も高い。内容を理解していても、応答の仕方を理解していなかったり、既習事項や経験を生かして適切な英語で自分の考えを表現したりすることに課題がある。(通し番号 9、10、33)

買い物の場面でのやりとりについて、英語で表現する問題の正答率が 25.5%、22.7%と低く、無答率も 22.1%、21.8%と高い。会話の流れが理解できていなかったり、場面に応じた適切な会話をしたりすることに課題がある。(通し番号 31、32)

(通し番号 9、10)

これから、ALT の Green 先生がスピーチをします。スピーチの最後に Green 先生が質問とお願いをします。それぞれに対するあなたの答えを、英語で書きなさい。

Hi, everyone. I have been here in Toyama for five months. I can't speak Japanese, so I want to study it hard.

Do you think it is difficult to learn Japanese?

Please tell me how to study Japanese.

2 今後の授業に向けて

- (1) 語、連語及び慣用表現等の言語材料の定着を図るために、語順や修飾関係等における日本語との違いを説明したり、関連ある文法事項はまとまりをもって整理したりするとともに、書いて練習する時間を引き続き確保する。
- (2) まとまりのある英語を聞いたり読んだりする活動を設ける際には、場面に応じた適切な英語が身につくように、英語の使用場面や状況を明確にするなどの工夫をする。
- (3) 様々な題材についての英語を聞いたり読んだりして、理解した内容を基に自分なりの感想を述べる活動や、賛否を明らかにしてその理由を伝える活動を充実する。